

熊本県在来小豆の中から、大粒で「つぶ餡」に適した系統を選定

熊本県平坦部において収量性に優れた熊本県在来小豆「熊選GA02」を選定した。この在来小豆「熊選GA02」は、10 a 当たりの収量は約140kgで、百粒重は約16 g、大粒系の小豆で「つぶ餡」に向く。

農業研究センター農産園芸研究所作物研究室（担当者：田中幸生）

研究のねらい

熊本県における小豆は、195ha（平成20年産）作付され、流通形態は自家消費や個人、物産館等における販売が主である。このため、加工原料とする小豆は県外産に依存している。

近年、地産地消の動きから実需者による在来の小豆生産拡大が求められている。

農業研究センターでは、在来種を、昭和60年から昭和63年に、県内の各地で約350系統収集していた。平成21年に収量性・外観品質に優れた「こし餡」向けの小粒在来系統「熊選GA01」を選定し成果情報として報告した。この系統は、香りは良好であるが、表皮が硬く「つぶ餡」には向かない。そこで、「つぶ餡」として加工適性の高い大粒系の小豆を選定する。

研究の成果

在来小豆「熊選GA02」は、備中大納言と比較して次のような特徴を有する。

1. 餡にした場合、色沢、風味が優れ、「つぶ餡」に向く（図1）。
2. 粒の外観は、大粒で黒く、赤味および黄味はやや低い（図2）
3. 10 a 当たり収量は、140 k g 程度である（図3）。
4. 分枝数はやや少なく、着莢数はやや多く、1 莢粒数は少ない。（表1）。
5. 播種期は平坦では7月中旬、栽植密度は条間60cm、株間15～20cmが適当である（図4）。
6. 着莢位置が低いため、バインダーやコンバインでの収穫に向かない（表1）。

普及上の留意点

1. 黒ボク土による試験結果。
2. 早播きは、蔓化し、収量・品質が低下しやすいので、標高別に適期に播種する。
3. 収穫後は、硬実粒（石豆）の発生を軽減するため、過乾燥を避ける。
4. 豆科連作での作付けは避ける。

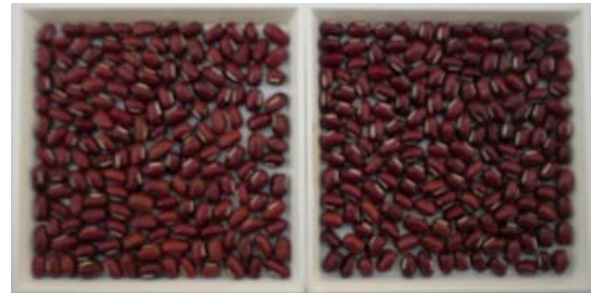
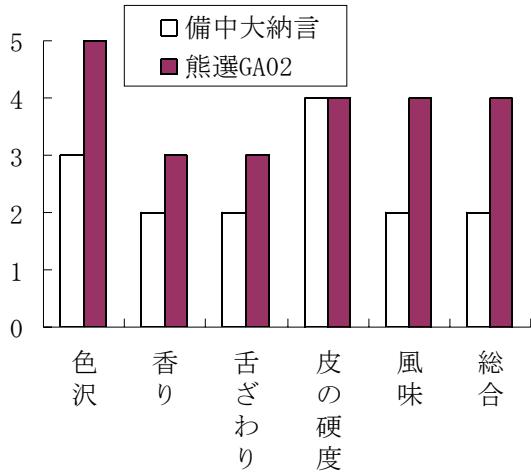


図2 備中大納言 (左)、熊選GA02 (右)

図1 つぶ餡の評価 (H22年お菓子の香梅)

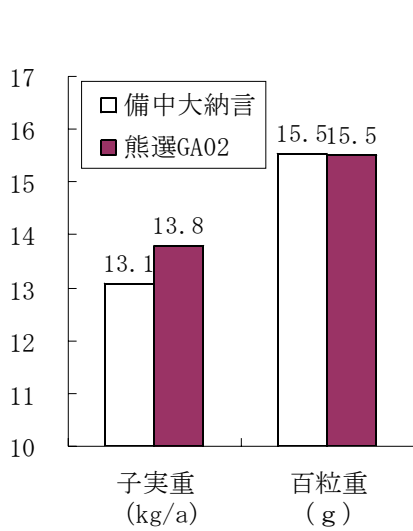


図3 収量と百粒重 (H19~21年の平均)

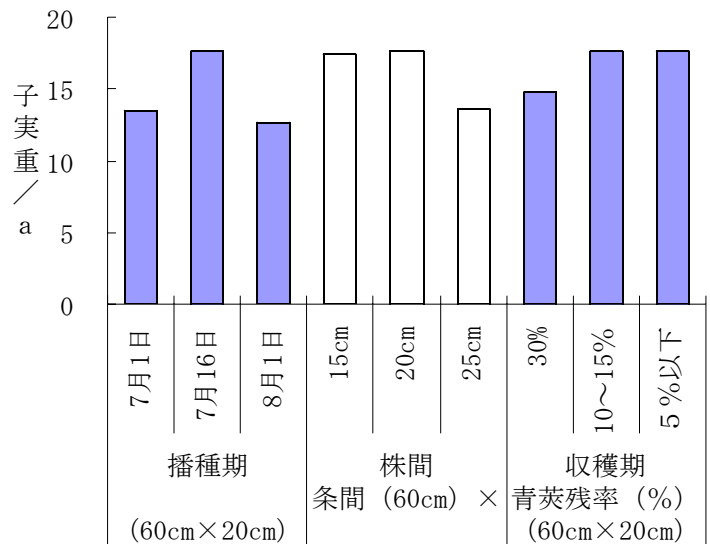


図4 「熊選GA02」の播種期、栽植密度、収穫期別の収量 (H20~21年の平均)
注) 株間と収穫期の子実重は7月中旬播種

表1 生育調査

品種系統名	開花期 (月日)	成熟期 (月日)	主茎長 (cm)	主茎節数 (節)	分枝数 (本)	着莢数 (莢/m ²)	1莢粒数 (粒)	蔓化程度 (0~5)	倒伏程度 (0~5)	最下着莢節位高 (cm)	検査等級
備中大納言	9/7	11/1	57	15.2	4.5	278	3.9	1.3	1.2	3.4	3等下
熊選GA02	9/6	10/30	54	14.9	3.8	319	3.3	0.5	0.7	2.5	3等下~規格外

注) 耕種概要 播種期: 7月中旬 (16~20日)、栽植密度: 6.7株/m² (H19は75×20cm、H20~21は60×25cm)、2本立
施肥: N:P:K=0.2:1.4:0.6